



南部支部 女性部・青年部共催

「渋染一揆」と「ハンセン病」を知る旅

南部支部女性部は、毎年夏休みに「反戦・反核夏の旅」を実施しています。今年は、青年部との共催で、8月21日に岡山方面での学習会を実施し、29名の参加者がありました。1日での学習会ではありましたが、深い学びができました。

「渋染一揆資料館」では、江戸末期、岡山藩から出された被差別部落に対する差別的な御触書に対して、人々がどのように行動し阻止することができたのかを学習しました。封建制度の時代において、武器も持たずに、人間の尊厳を守り抜いた闘いであったことを知ることができました。

「長島愛生園」には、現在も90名あまりの入所者がいます。ハンセン病は完治していますが、後遺症やその他の病気のため、あるいは血縁者との関係が絶えているために社会復帰できなかった方がほとんどです。感染力が弱く完治できる病気であるのに、差別と偏見によりこのような状況を生み出しました。これは、過去のことでなく、コロナ感染が拡大したときにも、やはり差別と偏見がありました。

私たちはこれからも過去の事実から学び、すべての人々の人権を守るため、子どもたちに何をどう伝えていくのかを考え続けていかなければなりません。



栄養教職員部が教研集会を開催！

9月9日、大阪市教育会館にて、第40回栄養教職員部教育研究集会が開催されました。

「栄養教職員の職務の充実をめざして」をテーマに、「食物アレルギー個別対応の取り組み」、「残食を減らす取り組み」、「社会科との教科連携の取り組み」の3本の実践報告がありました。

報告を受けての感想では、「どれも、自校で取り組んでいきたい内容ばかりだった」、「児童の実態を捉えて、課題解決に取り組んでいることが素晴らしかった」との声があり、研究協議でも活発な意見交流が行われるなど実りのある研究集会になりました。



2024年度 文部科学省概算要求

文科省は8月30日、来年度教育予算の概算要求を公表しました。主な内容は以下のとおり。

- ① 文科省全体予算は2023予算額を上回る前年度当初予算比11.9%増の5兆9,216億円。
- ② 小学校高学年における教科担任制や少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備等、様々な教育課題へ対応するための教職員定数改善5,910人（基礎定数3,610人+加配定数2,300人）、定年引上げに伴う特例定員として4,857人。
- ③ 令和5年度からの定年引上げに伴う特例定員（4,857人）を活用した定数改善の前倒しを図る。（例：小学校35人学級、通級指導等の基礎定数化）
- ④ 小学校高学年における教科担任制について、22年度から4年程度をかけて段階的に改善を図るとした予定を1年前倒しして1,900人増。24年度は、小学校専科指導加配5,600人と合わせて9,400人の加配定数が確保される見込み。
- ⑤ 学校における働き方改革の推進のための支援スタッフの充実として、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の大幅な増員。（前年比15,150人増）
- ⑥ 「骨太の方針2023」に記された、GIGAスクール構想の1人1台端末の着実な更新として、児童生徒数全体の2/3台分、1台当たり4.5万円の補助上限。
- ⑦ 部活動・地域移行の関連予算について、49億円をスポーツ庁・文化庁から予算計上。



南部支部 Y2パーティーを開催



南部支部は、「Y2(わいも わいらも)パーティー」を、あべの楓林閣ビアガーデンで開催しました。昨年同様、感染の様子を見ながらということで、7/27と8/25の2回開催としました。両日とも「恒例」となってしまった「タ立」に遭いながらの開催でしたが（8/25は屋根付き会場）、それでも早くから多くの分会のみなさんに集まっていただきました。

今回は少人数分会の参加が多く、始まると各分会の知り合い同士が一緒になって互いの分会メンバーを紹介するなど、交流の場となっているのが印象的なパーティーでした。また、パーティーの参加で組合加入した参加者もいて新しい仲間が増えました！参加いただいた多くの分会の方々どうもありがとうございました。来年も開催予定です！

広報部メモ

文科省は、9月8日に「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（中教審提言）」を踏まえた取り組みの徹底等について通知を行った。提言は、“できることを直ちに”行うという考え方のもと、緊急的に取り組むべき施策を取りまとめたものである。“できることを直ちに”行ってこなかったために、課題が山積している。“すべきことを直ちに”行うことを前提にしていけないこの姿勢が、日本政府の教育施策に対する本気度の低さを露呈している。(WO)

10月の組合費の引き落としは

10月20日(金)

※働きがいのある職場を実現するため、なかまの声かけで組合員を増やしましょう！

= 大阪・母と女性教職員の集い =

8月26日、エルおおさかで「子ども・教育・人権を語ろう ～一人ひとりのつばやきを“ちから”に～」をテーマに第33回大阪・母と女性教職員の集いが開催されました。

全体会では「これからの学校と社会を変えていこう おとなと子どもの市民宣言」が行われました。登壇者の中のお一人が「人権は自分たちで作っていくもの」と話されていました。今の政治の言いなりになっては、教職員の人権も侵害されてしまいます。わたしたちの社会は、わたしたちの行動で変えていきましょう。一人ひとりの声では、すぐに消えていってしまいますが、みんなで声を上げることによって、みんなでより良い教育現場に変えていこうという力強い発言があり、原点に戻ったように感じました。

第1分科会：子どもと人権「性教育は『生』教育～今、子どもたちに伝えたいこと～」

石原享子さんは、ネットから様々な情報や知識を得ている子どもたちに、正しい性についての知識や自分も他人も大切にすることを伝える必要性を感じられたそうです。学校では歯止め規定があって踏み込んだ内容まで教えることは難しい。そこで、懇親会で外部講師の浅田昌代さんをお招きしてお話してもらうことを提案、同じ不安を持っている保護者もいて、子どもたちに伝えたい内容とは何かを出し合って何度も話し合い、担任や養護教諭も参加していったそうです。子どもたちに必要だとの思いから、諦めずに周りを巻き込み実現に向けて行動する石原さんや、あちこちで命の授業を続けておられる浅田さんから、こういう授業がどの子も受けられるような環境を作っていきたいと強く感じる報告でした。

第2分科会では、映画「みれいろ」の編集をされた申麗順さんのお話を聞きました。申麗順さんは、「民族を投げ出さず、朝鮮人であることと向き合いたい」とおっしゃっていました。その強い気持ち・言葉を作ったのは間違いなくチェーサー（大阪朝鮮第4初級学校の通称）と、そこに関わる人たちです。残念ながらチェーサーは、児童数の減少・財政難などの理由により2023年閉校、合併となってしまいましたが、「未来の子どもたちのために」と団結する姿は本当に素晴らしいものだと感じました。わたしたちも今の教育現場で何ができるのか考え、団結して実行していかなければならないと強く感じました。

全市分会代表者会議

◇日時：10月5日（木）18:30～

◇場所：大阪市教育会館6F12号室

◇内容

- ・2023年大阪市人事委員会勧告について
- ・教員免許更新講習の廃止に伴う教員研修記録の取り扱いについて
- ・標準授業時数（年間授業時数）について
- ・育児に係る制度改正を求める要求について

「子どもの権利条約カレンダー」

定価 1430円→1100円（税込）

「憲法9条カレンダー」

定価 1375円→1300円（税込）

購入をご希望の方は、10月13日（金）までに市教組へ電話（06-6942-3561）にてお申し込みください。購入されたカレンダーにつきましては、市教組書記局にて購入代金と引き換えにお渡しいたします。

第411回市教組中央委員会

9月14日、大阪市教育会館にて市教組中央委員会が開催されました。議長に北部支部の中世古中央委員と東部支部の武藤中央委員が選出され、議事が進められました。

松岡委員長は冒頭の挨拶で、①国人勸を受けて現在、市労連で月例給・ボーナスを国に準じて引上げるよう、市の人事委員会や市当局と交渉をすすめていること。②国が定めている標準授業時数を大幅に超過している実態があることから、標準授業時数を遵守するよう申し入れを行ったこと。③教員の研修やその記録作成が負担増とならないよう、来年度に向けて申し入れを行ったこと。④育児や介護を必要とする教職員が、柔軟で多様な勤務形態を取得することが可能になるよう、制度改善を申し入れすること。⑤勤務労働条件や年度末人事異動、定数改善についての交渉を精力的にすすめていくことなどを述べられました。

執行部より「当面の闘争推進に関する件（案）」、「2023年度人事闘争方針（案）」の提案後、質疑はなく、4人が討論に参加しました。採決では、執行部原案が圧倒的多数の賛成により可決・承認されました。（討論内容は以下のとおり）



宮尾中央委員（事務職員部）：9月13日に事務職員部委員会を開催。当面の闘争方針や人事闘争方針を全会一致で可決。組織強化・拡大の勢いを加速させるため、昨年度に引き続き「グラウンドフェスティバル」を開催予定。10月19日には、学習会を開催し、学校事務職員を取り巻く情勢を共有し、職の確立に向けた共同学校事務室等の活用と今後の取り組みについて組合員同士の議論を深める場にしたいと考えています。



戸田中央委員（女性部）：南部女性部・青年部共催の学習会で岡山へ。渋染一揆は、話し合いで村人全員が同じ思いで取り組み、言論で相手に向かい合うという姿勢に私たちも学ばなければならないと思いました。長島愛生園では、ハンセン病を発症した子どもを母が「旅行に行こう」と連れてきて、子どもが検査している間に母は船で帰ってしまったという悲しい話に、胸が張り裂けそうになりました。

畠中中央委員（東部）：8月7日、青年部で広島平和フィールドワークに参加しました。組合で行ったことで、個人で行ってたら全く知らなかったような所に行けたり、パンフレットとはまた違った視点からの説明を聞けたりしたことが良かったです。11月8日に東部支部主催で今回のフィールドワークの報告学習会を開催します。教育センター等の研修では感じることでできない深い学びができるのが組合だと思いました。

喜納中央委員（南部）：長島愛生園にハンセン病の方はいません。ハンセン病は治る病気で、後遺症により障がいが残ってしまう。多くの方がそれを知らず、偏見から差別する側に回っていた。人権意識を高めて行くには無関心ではいけないし、知っていこうとしなければならないと、あらためて思いました。2回に分けて開催したY2パーティーでは分会間でのつながりも深まり、その場で組合加入した人もいました。

